

# JAITI 5

Japanese Agricultural Inservice Training Institute

JAITIとは、「財団法人日本農業研修協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Instituteの漢文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基礎とする、アジア・アフリカ諸国の農村地域社会の人々が、「生きる糧」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修協力団  
住所 〒386-05 長野県小県郡武石村沖456  
TEL0268-85-3465 FAX0268-85-3583

## 「財団法人」になりました

この一月二十九日付で、長野県知事認可の、財団法人になりました。設立に向けて、基本財産の基金積立にご協力下さった皆様のご支援に、衷心より厚く御礼申し上げます。財団法人にした理由をここで改めてお知らせし、ご理解いただき、今後共本水く運営に、ご協力をお願い申し上げます。

第一に、活動の継続性を最大の目的にしています。公益法人としての財団法人は、万が一何かの理由で、事業運営の継続が困難に直面した時は、法律により同一事業を運営している、他の財団法人に合併することになっていきます。従って、現在実施している事業の、継続運営が可能になります。

このことは、ジャイチの基本理念である、支援事業を実施する上で、一番大切なこと、それは「継続の維持」、これを守ることに他なりません。今、私達がやっている事業は、一時の思いつきで、ボランティア、NGO(民間海外援助団体)、国際貢献なる言葉を使い、自己責任においての自発的行為ですと、一方的に押しかけ、興味が無くなった、金が続かなくなった、今年度は予算を組まなかったと言っ

た、最も簡単に中止する程、軽薄な考えで行動しているのではないことを、お分かり戴けると存じます。支援している人々が、自立出来る迄、続けます。次に、活動するに当り、当然、最少額なりとも、運営費は必要です。安定した運営資金を確保する上で、財団法人の基本財産は、正に当を得ています。

何故ならば、基本財産の資産運用にて得た資金は、事業運営に使えますが、基本財産自体は、どんな事情があろうとも、取り崩して事業運営に使うことが出来ない仕組みになっています。しかも、この資産運用は、国債とか、貸付信託等の元本保証されることでしか、運用してはいけないことになってます。

ジャイチの基本財産は、一億二千万円強で発足しました。この大部分は、ジャイチ設立当初より、資金面で全面的に支援されている、小林栄・みよ子様が拠出下さいました。財団法人認可の上で重要な条件の、公益性の観点で、今日迄、設立基金の積立をご支援下さいました。国内外の方々から、八〇〇回余の寄附金の積立があったからこそ、結果と、改めて感謝致します。

普及、農業の各事業に関する情報の収集及び調査研究、啓発の事業を、以下の項目で実施しています。

- ・農業技術者を派遣して、気候風土に見合った作物を試験栽培し、定着が見込めた時期に、地域農家への普及。
- ・農業技術者の養成を、国内外で実施。
- ・日本への農業研修生の受入れ。
- ・森林の育成に務め、植樹、管理、地域への苗木の供給源としての役割を担います。
- ・実験研修農場及び実践農業学校を運営する農業団体の助成及び支援。
- ・農業資材、器材、農民のための衣類送付。
- ・導人可能農業技術及び適作日、農業事情に関する調査研究。
- ・現地、視察研修。
- ・青少年対象の農村体験学習。
- ・農村文化案内及び視聴覚教材貸出しを通して、現地の情報提供。
- ・農業技術者交流大会。
- ・奨学金里親制度の普及。
- ・機関紙の発行。1月と7月に支援者及び希望者へ、事業報告を兼ねて発送します。これ等の事業を通して、開発途上国の人々と共同作業で食糧を安定確保し、基礎教育を行い、自立心を引出し、文化相違点を尊重し合って、継続維持できる交流を実現しています。

それが、女性として十七番目に、世界一の山の登頂を果たした、唯一のネパール人女性への、ネパール国民の思いです。ジャイチネパール支配人 ナワン・D・シェルバ

御礼申し上げます。是等のことを踏まえて、今後の財団法人事業を、後記の評議員各位の助言を受け、理事が事業遂行し、監事の監査を受けて、運営してまいります。続けてのご支援をお願い致します。事務局長 柴田健介

役員	
理事長	小林茂夫 長野県小県郡長門町
副理事長	小林 栄 東京都文京区
常務理事	柴田健介 長野県小県郡武石村
理事	島田基正 長野県上田市
理事	高橋武光 東京都文京区
理事	寺島義幸 長野県北佐久郡立科町
理事	角地弘行 東京都練馬区
監事	増澤忠篤 長野県上田市
評議員	
井出守雄	長野県小県郡武石村
岩崎吉一	東京都立川市
氏原雅男	長野県上伊都郡南箕輪村
小林 弘	神奈川県大和市
戸塚 勇	東京都府中市
林 淳一	長野県小県郡長門町
松浦 浩	神奈川県足柄上郡大井町
森 精	愛知県名古屋市長
由井直人	東京都文京区
ロブサン・テンジン・シェルバ	長野県駒ヶ根市

救済するための多大の努力をしましたが、結果は二十三日後に、失踪時と同じ標高地域で、遺体として発見されました。彼女の悲惨な死は、ネパール国民の誇りと、名誉の象徴となり、政府は、彼女の肖像入郵便切手を発行する声明を出しました。ネパールの人々は、人生を代償にしての凄まじい奮闘を遂げ、故、パサン・ラム・シェルバ夫人に、「サガルマータの妻」の称号を与え、永久に国民の誉れとして、語り継ごうと呼び掛けられました。

### ネパールからの最新情報

パサン・ラム・シェルバ夫人の葬儀が、五月二十日カトマンズで行われた。彼女は世界の最高峰、エベレスト(ネパールではサガルマータと呼びます)に、初のネパール人女性として、一九九三年四月二十二日登頂しましたが、下山途中の七七五〇メートル地点で、同行した男性と共に遭難しました。



# 今日のジャイチ

財団法人になったのを機に、今後毎年、七月発行の機関誌にて、前年度の事業、取支報告及び、本年度の事業予定の抄録を掲載します。

他の誌面と併せて高覧観き、直接のご支援は因より、ジャイチへの協力者拡大の一助を、お願い致します。

## ◆第一期事業報告

一九九二年四月より、一九九三年三月迄に実施した事業です。

- ・四月、カトマンズ事務局のネパール政府認可取得。
- ・一月、長野県知事認可の財団法人となる。
- ・カカニ実験研修農場の農業技術者派遣を、八月より通年態勢。地元村長の要請を受け、研修生の受入開始。
- ・実験、研究試作の継続実施と共に、農場内の灌漑施設を含めた基礎整備。植林用苗木生産。
- ・シンパンジャン農業実践学校の認可を二月取得。教室棟、水道施設、生徒用便所、学校用地の囲い、机、椅子、黒板等の室内備品の整備及び、教員二名の確保をして開校待った。

## 勤日本農業研修場協力団収支報告書 1992年4月～1993年3月 (単位千円)

### 1 収入の部

①基本財産運用収入	369
②支援者寄附金	6,326 (404件)
③国際ボランティア 貯金の寄附金	5,629
④財団設立者寄附金	3,000
⑤視察研修参加費	3,043 (11名)
⑥その他収入	14
合計	18,692

### 2 支出の部

①事業費	13,614
②基本財産への組入	2,640
③事務局運営費	1,847
合計	18,101

### 3 繰越金

592

※支援者寄附金の内より「ジャイチ基金」への指定及び、無指定寄附金の50%を、基本財産へ組入れました。

・日本事務局を基点に、ネパールの文化案内、情報提供と共に、トレッキング、旅行に出る人への助言、現地への連絡、諸手配を実施。

・前項の方々の協力を得て、農業資材、器材、衣類、文具類を手荷物として運んで貰う。

・視察研修の旅を十一月、青少年農村体験学習は、文京女子大学のワータキヤンに協力。

・奨学金里親制度四組成立。累計五組。

・機関誌、一、七月発行。

・これらの事業費と事務局運営費に、皆様からの寄附金、郵政省国際ボランティア貯金の寄附金、そして不十分な部分を、小林栄・み

・現地視察研修の旅、青少年農村体験学習は、前年度と同時期、同方法。

・機関誌発行は、本号及び一月発行。

・その他日本事務局基点の古着、文具類の取集送付、奨学金里親制度の拡大、ネパール文化案内、情報提供等の事業は、従前通り実施。

・本年度の必要資金を、今月迄同様、皆様からの寄附金、社団法人国際農業協会の支援助成金、郵政省国際ボランティア貯金の寄附金及び、基本財産運用収入をもつて、運営します。

・こんな協力方法もありません。一層のご支援をお願い致します。

## ◆第二期事業予定

一九九三年四月より、九年三月迄の事業を、次の通り予定していますが、現地の状況、社会情勢の変化等に柔軟に対応して、予定した事は何れでも実施する、予定外であるから実施しない的、硬直的思考を持たずに取組みます。

・カカニ農場の農業技術者、ボランティア参加も含め通年派遣、研修生の受入、牛小屋、種子保存小屋、灌漑用油機等を含め農場基礎整備を実施しながら、作日の研究試作の継続。

・日本事務局を基点に、ネパールの文化案内、情報提供と共に、トレッキング、旅行に出る人への助言、現地への連絡、諸手配を実施。

・前項の方々の協力を得て、農業資材、器材、衣類、文具類を手荷物として運んで貰う。

・視察研修の旅を十一月、青少年農村体験学習は、文京女子大学のワータキヤンに協力。

・奨学金里親制度四組成立。累計五組。

・機関誌、一、七月発行。

・これらの事業費と事務局運営費に、皆様からの寄附金、郵政省国際ボランティア貯金の寄附金、そして不十分な部分を、小林栄・み

・シンパンジャン学校は四月十五日開校、第一期生三十名入学。五、六才児二十四名、この子達の進学に同行必要を、姉六名、四カ月間は一緒に授業実施するが、以後は二組に分ける。

・第二期生用教室棟及び同行年長組用教室棟の合計二棟、教員宿舎二棟の建設実施。

・日本の農家への研修生受入開始。

## ◆開校式風景、新入生は手前に座っている



## シンパンジャン農業実践学校

# 三十人入学!!

シンパンジャン農業実践学校が開校しました。

四月十五日、石楠花咲く二一〇〇メートルの地、日中でも防寒着が欲しい程の寒い中でしたが、三十人の一年生を迎えて、待望の開校・入学式が行われました。

三月に訪れた、文京女子

今年のは、松田カママンの率仕で記録しましたが、向う九年間の記録に、資金協力者(会社)を求めています。学校は、毎年三十人づつの新入生を受入れ、十年目には、三十人、十教室、三〇〇人の学校になります。早い機に給食設備も整え、二時間も歩いて通学する子供達に、一食をと願っています。

大学山下ゼミの学生さんにより、整備を終えた校舎、校庭に、村人総出で花を飾り、村長、生徒、父兄、ジャイチの関係者、他の総勢二〇〇人余で、心からお祝いをしました。

農業実践を組み入れた新しい試みの学校史を、映画で十年間振り返り、NG

〇活動に携わる人々への提供資料にしたいと、この日のために、松田カママンと助手をする目的で、社業を休んで同行した三村さん、兄、ロブサン・テンジン、シネルバ氏(この学校の用事担当者)が仕事の関係で出席出来ないのを、替りにフランスから駆けつけた弟のダワさん、現、駐日ネパール大使ダイケール閣下のご子息マノズさん、今日迄の活動資金の大半を拠出下さった小林ご夫妻、そしてネパールジャイチの大黒柱ナワン支配人、松浦農業指導員等々で、一泊二日の開校式でした。

映画は、五年目で一度公開し、今年入学した子供達が卒業する十年後に、完結編が出ます。

# 今、カカニ農場では

昨年の八月下旬から、途中三月に一時帰国のため、二週間留守にしましたが引き続き滞在しています。

天候は昨年と異なり雨が多く、すべての仕事が遅れ気味となっています。四月には百五十ミリ、五月も二十日現在で雨の降らなかつた日は四日間のみで、すでに百七十ミリも降っており、太陽の照る日が少なく気温も低く、人工的に保温して

も気温が低いので、生育は遅れています。水田造成、湧き水を利用した貯水池の作業も予定よりだいぶ遅れましたが、田植には間に合うようがんばっています。小麦も収穫時期となり、五月九日より天候の様子を見ながら、刈取りと脱穀を行なっていますが、他品種の混入が多く、種子用には刈取り後、一晩づつ選別して良い物を二種類残しております。

日本より持参したうち、早生の方が良いため、全部

抽出下さる「銀餅」さんに感謝申し上げます。心と心の繋りである信頼関係は、子供達が自立した時、大輪を咲かせてくれることを、心密かに期待しています。

家族が次々と生れて、思わず煩をゆるめ、目を細めて眺めています。願わくば、この子供達が成長するに従って、親を困らせる子供に育って欲しいと、懇心の期待をしています。何故？自省を促めてですが、「手の掛る子程、可愛いと申すでしょう」。

冗談は別にして、人と人の採り方の原点をしつかり見極め、次代を傳う子供に、親子になる気持ちをお持ち下さい。



## 只今、七組誕生

前号でも奨学金制度を載せましたが、再度概略をお知らせ致します。・提供者と受給者は、基本的に、親子になる気持ちをお持ち下さい。

・提供期間の目安は、十年間を目途にして下さい。・金額は、年額六万円を予定して下さい。・お申込がありましたら、以下の順序で、ジャイチが、受給者との連絡を致します。

申込受付→ジャイチネパールへ、受給者の選定依頼→希望者の紹介→提供者の了解→受給者のネパールでの受取口座開設→提供者へ、受給者の口座番号の通知、及び、本人の氏名、年齢、入学生定校名、写真の引渡し→送金開始、の順です。

### 7組の親子さんを紹介致します。(縁組の順)

- 東京都練馬区 山下 泰子 —PASANG SHERPA (女13才)
- 神奈川県横浜市 玉木 海 —DAWA JANGUMU SHERPA (女10才)
- 岩手県盛岡市 笠原 直枝 —PALDEN SHERPA (男7才)
- 東京都文京区 小林みよ子 —DAWA SHERPA (男10才)
- 東京都港区 赤松 良子 —PEMBA DOLMA SHERPA (女6才)
- 東京都世田谷区 下平 幸子 —KUSUM LAMA (女9才)
- 長野県上田市 稲垣勇一・種子—HORIZON ADHIKARI (男6才)

種子用として残し、今回は早播き(十月中)と、ここより二百米程低い所から集めている研修生にも試作してもらおう予定しています。

ジャガイモは、カトマンズ近郊の品種のため余り良い成績とは云えませんが、次に植えるサツマイモの苗が、畑の空くのを待っていますので、若干早いのですが一部掘り始めました。試作したタマネギは、苗が小さ過ぎたことと、サツマイモの跡に植えたので、定植後イノシシに荒され収穫も減っています。多く

え直したことや、冬期の乾燥のため生育が悪く余り期待はできそうにもありません。

草は、一―三月は低温のため実の肥大も悪く、乾燥も加わり元気もなくなってきましたが、開花だけは続いていましたので、二月に果実と花をすべて取り去り株の衰弱を防ぎました。その後三月下旬に、畑を整備するため移植しましたが、四月中旬が最盛期となりました。現在でも開花が続き収穫も減っています。多く

花の咲かない品種が見付かればと思っております。

また、販売前から、カトマンズで産を栽培しているネパール人に、各品種を十株位づつ試作してもらおう予定です。水稲も播種が予定より遅れて五月二日になってしまいましたが、畑苗代で育っており、作付面積も昨年の倍以上を考えています。昨年試作したネパールの高地向きの品種が中心ですが、東北地方の山間地で冷害に強いという三品種を試作してみます。出穂が八月中であれば最低温度が十度以下になる前の十月中旬ごろまでには収穫できると思っておりますが、後は気温が少し



でも上つてくれることと、開花期の天候を折る次第です。

近所の農家も昨年の出来具合を見ており、種子を分けてほしいという要望が強く、十二戸に四十キロ程、譲り試作してもらおうことになりました。

二月下旬に播種したキヤパツ二品種は、すでに定植も終り、今後は一ヶ月置きに播種して生育状況を調べ、雨期の作物としてはどうかと考えています。ここは高地のうえ、雨も多く六月八月の最高温度でも二十五―十六度、月平均で十七―

十八、五度位ですので、葉の比較的硬い種類のキヤパツと大根の栽培を計画しております。大根も苗の品種(みの早生、三浦、秋づまり、時なし、理想、宮重長大、宮重給太)を試作して、成績の良い品種は再度八月下旬―九月上旬に播種して、種子を探るつもりです。その他、実取大豆、実取エンドウ、カリフラワーなどを用意しています。

現在畑には、ニンニク、タマネギ、海、ゴボウ、ニンジン、インゲン、枝豆、チンゲンサイ、トウモロコシなどが育っており、この後はサツマイモ、甜菜そして自家用のキヌウリ、カボチャ、トマト、トウガラシなどが苗床で定植を待っています。そしてカラマツ、桑その他樹木の苗も、田植終了後に定植する予定で準備をすすめています。

また、研修生も半年間延長した一人と、四月から新しい二人の三人となり、なかなか賑やかな毎日です。

農業指導員 松浦 浩

農業は子育てと一緒と、昨年八月二十五日以来、日本へは、今年三月に二週間戻っただけで、カカニ農場に取り組み放し、家族は、会うためにネパール通いを最近は始めている。



### ネパール農場と学校訪問の旅参加者募集

現地ネパールでのジャイチの活動をあなたの目で見たい。紺碧の空に続く段々畑の方か二農場と、シンパンジャンの学校の新年生が待っています。

ご希望の方、ジャイチ事務局までご連絡下さい。  
 ・費用 三十一万円。全ての旅費、宿泊費、食事代が含まれています。参加者が

「香典返し」のお金を、寄附して戴きました。

この考えの提供者は、「種子銀行」設立準備にご協力下さっている上倉さん。

返事は、物余りの現代日本では、無意味な行為と思われ、皆さん疑問を感じているが、

日本文化の風習として、世間並の気持もあって、断ち切ることが出来る。言葉は悪いが、押入れの肥しになるのを承知の上で、流されている。義理を欠かさず、寄せた下さった人にも納得される方法として、香典返しをする替りに「開発途上国へ支援している団体へ、皆様

## こんな協力方法もあります

地球環境にやさしくの原点の一つ、不要不急な物を消費しない観点からも、とても良い策と考えます。

又、私達の活動資金に大変強力な支援となります。お三方の職場の「IBM 広報」にも、このことを掲載下さったと耳にしており、次々と、同様な支援の輪が広がることを、切望しております。

野原武石村へ帰って来ました。総人口二百人に満たない島、三年生は彼を含めて、男女各一名の二名、家に帰ると、「バットマン」と同時先生、編組のじゅん心にはぐくまれた、数々の

も、国崎先生が校務で島外へ出掛けると、何時戻るかわからない。海が時化ると船が通わないので、治まる迄何日も戻りません。不安の中、じめんこの食事の世話をして、ながらの通学でした。

大切なことは何か？ この一年間に、昌史君の心にはぐくまれた、数々の

今、昌史君は、両親の元より、地元の高専学校へ、次なる夢を追い元気に通っています。

昌史君、会合中学校卒業おめでとう。

昨年七月の本紙第三号にて、「夢に向い勇気ある旅立ち」で、この頁、この欄で紹介しました。城下昌史君は、今年三月、鹿児島県口永良部島（鹿児島より更に二時間の船旅が必要です）での、中学三年生の一年間の学校生活を終え、長野県武石村へ帰って来ました。

昌史君、会合中学校卒業おめでとう。

昌史君は、両親の元より、地元の高専学校へ、次なる夢を追い元気に通っています。

昌史君は、両親の元より、地元の高専学校へ、次なる夢を追い元気に通っています。

## バットマン先生 ありがとう



上屋久町立金岳中学校卒業式、全員で二名、内一名が昌史君。

昌史君、会合中学校卒業おめでとう。

昌史君は、両親の元より、地元の高専学校へ、次なる夢を追い元気に通っています。

11/13(土)	成田8:45集合。香港乗換で20:15カトマンズ着。飛行機でボカラへ移動。着後皇太子様も登られたサランコットへミニトレッキング。
11/14(日)	バスでナトワン国立公園へ。森の中中でランブの灯をお楽しみ下さい。
11/15(月)	終日、野を忘れて滞在。集に集たりカヌーの川下りで遊みます。
11/16(火)	バスでシンパンジャンの学校訪問。子供達と交流をしてカトマンズへ。カカニの丘の展望台でヒマラヤの山々を眺めてから農場訪問。
11/17(水)	朝1番で今度はマウンテンフライトで空からヒマラヤを眺め、戻って市内観光。
11/18(木)	午前発の便で香港へ夕方着。夕食後ビクトリアピークの夜景を楽しみます。
11/19(金)	午前発の便で14:30成田着。
11/20(土)	の日は、申込時にその旨お申出下さい。同一費用を予定しています。同一費用を予定しています。(香港で合流します。)
11/21(日)	申込期限 八月二十五日(水)

申し込み先 〒386-05 長野県小県郡武石村沖456 ジャイチ事務局 TEL 0268-85-3465 (豊田) FAX 0268-85-3583

### ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明とお願いを致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本財源の確保  
 基金を信託銀行で運営し、その果実(源泉費)でジャイチ活動の基本部分を保証することを目的としています。香典類、多額、集約のようなものです。  
 ・基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が豊かになります。  
 ・基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に協働の輪が狭まります。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費  
 基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年草のような春植え秋に収穫して終わります。・当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費  
 新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応接費用として確保することを目的としています。  
 ・通常の予算(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では賅いきれない時に臨時に集める目的の資金です。  
 ・必要な時に皆様にお願いのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのか、お教え頂きますと幸いです。もしも特に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

振込先 郵便振替 長野1-65434  
 銀行振込 八十二銀行九子支店(普) 420577  
 財団法人日本農業研修協会の口座へ  
 住所 〒386-05 長野県小県郡武石村沖456  
 電話 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独りご自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、約な考えは如何がでしょうか。)

### 編集後記

毎日毎日、水をやり育ててきた植物の花が咲いたようです。財団法人化は、鉢植えから地植えになったような力強さがあります。器が大きくなると、仕事が増えて参りました。四月から、ネパールトレッキングの大好きな女性、豊田かずいさんが事務局に入り、連日オニの事務局長にしかかれております。

ジャイチは、おつくりと大地に根をおろしてゆくでしょう。

昌史君は、両親の元より、地元の高専学校へ、次なる夢を追い元気に通っています。

昌史君は、両親の元より、地元の高専学校へ、次なる夢を追い元気に通っています。